3、検索用データベースとして扱う場合の留意点

基本的にSGML→XML変換で生ずる問題点を考慮しながら検索という観点から以下の点に注意が必要である。

a）印刷物や閲覧画面表示の体裁を主目的としたSGMLデータは文字修飾用のタグが頻繁に使われており意味のある文字連子を抽出するのに負荷がかかってしまう。

・<EXCHAR>うつ</EXCHAR>病　　など

b）例えば α β γ などの文字は &agr; &bgr; &ggr; などと入力されておりEntity-List を参照しないと実体文字が不明である。

c）テーブル型データの場合、行方向、列方向のルールが曖昧となっておりセルデータを見出すのが難しい。

・AAAAAを見出すには Rowwise

	AAAAA	BBBBB	CCCCC
XXX	◎		
YYY	◎		
ZZZ	◎		

・AAAAAを見出すには Columnwise

	XXX	YYY	ZZZ
AAAAA	◎	◎	◎
BBBBB			
CCCCC			

d）データフィールド中に項目名や見出しが入っている例があり、データとの区別がつかない。

e）データ中の ”（図略）” は データベースとしては対応に困る。

f）入力されている用語について、連結方法に不揃いな例がある。統制語管理がなされていない。

・例、　指定医薬品・要指示医薬品
　　指定医薬品、要指示医薬品
　　指定医薬品要指示医薬品

g）タグ内データ
タグ内に実データを入れてしまうと制御データと実データの区別がつかない。

上記、検討の結果、今回の検索システムではSGMLの書式で検索を行うのが非常に難しいとの判断から検索用データベースとしてテキスト型で抽出し、再構成を行った。

以　上

添付資料－１

３．医薬品規制区分データベース検索システム

操　作　説　明　書

（　第　１　版　）

平成１４年３月２８日

－ 目 次 －

1、　システムのインストール

2、　システムの起動

3、　画面遷移と操作説明
　3－1、　検索
　3－2、　検索結果一覧表示
　3－3、　検索結果詳細表示画面

4、　検索ロジック
　4－1、　項目内検索ロジック
　4－2、　項目間検索ロジック

5、　注意事項

1、システムのインストール

a）システムの専用フォルダー（名称はなんでも良い）を作成する。

b）提供された自己解凍型圧縮ファイルを作成したフォルダーにコピーし
該当ファイルをダブルクリックして解凍を実行する。

newsfx.EXE → 専用フォルダーにコピー → ダブルクリック

c）検索システムは下記２ファイルが格納されている。

Japicdb.exe　　Windows2000 対応版
Japicdb2.exe　　Windows95 対応版（Windows2000 も可）

☆機能的には全く同じ
☆どちらかを選択し、デスクトップ上にショートカットを作成する。

d）OCX ファイルのコピー
汎用グリッドコントロール用OCXファイルを同フォルダーにコピーする。

Japicdb.exe 用　VB2000 フォルダー内にある　MSFLXGRD.OCX
Japicdb2.exe 用　VB95　フォルダー内にある　MSFLXGRD.OCX
注、名前が同じなので注意が必要

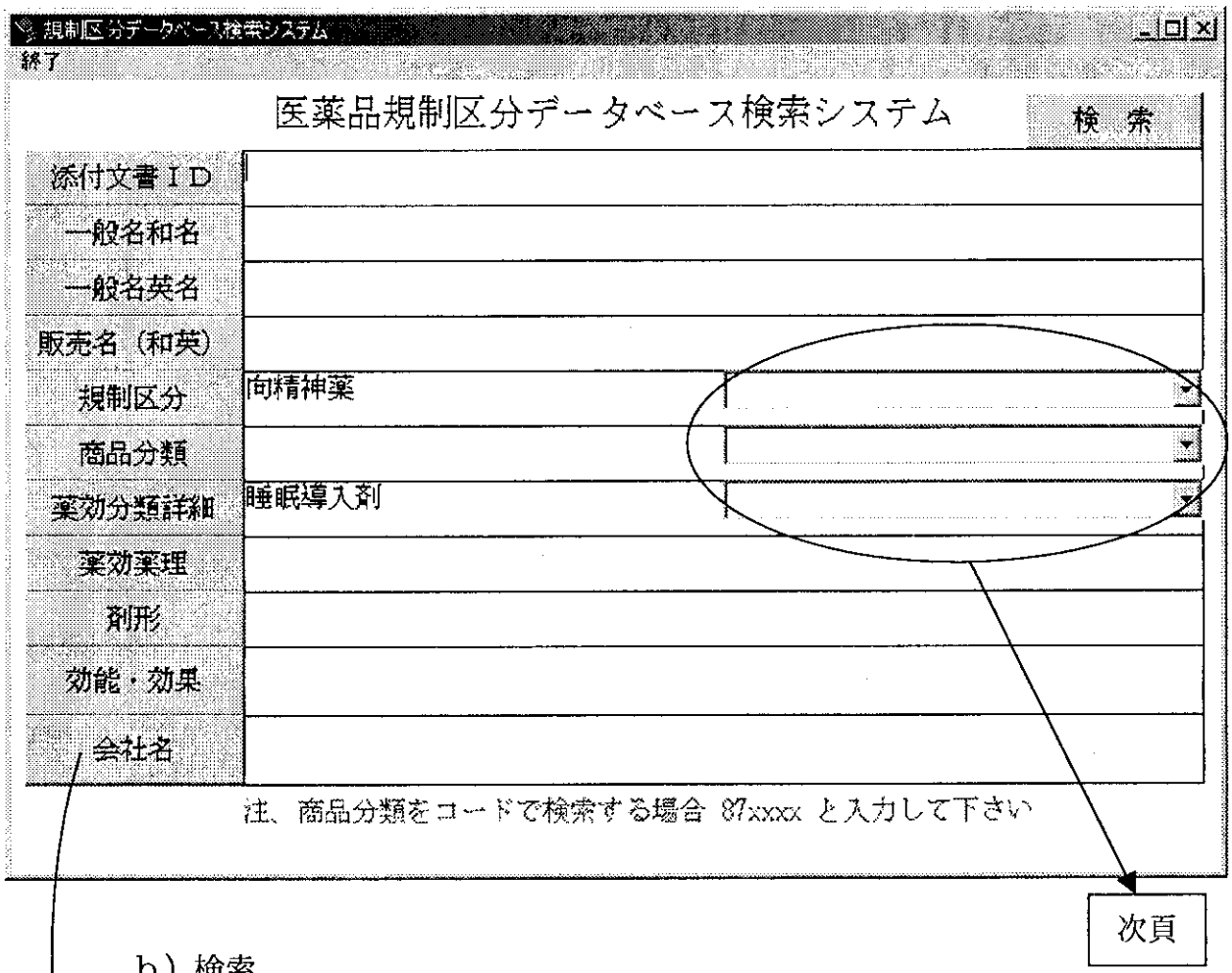
2、システムの起動

a）Japicdb.exe （又は Japicdb2.exe） 又は
ショートカット アイコンをダブルクリックすることにより
システムは起動され検索画面が表示される。

3、画面遷移と操作説明

3－1、検索

a）検索画面



b）検索

検索したい項目（添付文書ＩＤ　～　会社名）に質問後を入力し

検索ボタン　をクリックする。

検索が終了すると検索結果一覧表示画面が表示される。

c）質問語入力域のクリアー

項目名ボタンをクリックすると該当質問語入力域がクリアーされる。

d）検索の終了

画面最上段メニューバーの　終了　をクリックする。

e）プルダウン・メニュー

各リストボックスの ▼ボタン をクリックすることにより
用語が表示されるので検索したい用語を選択クリックする。
これにより選択された用語は質問語入力域へ移動する。
（各用語はデータベースから抽出されている。）

複数選択：

同一リストボックスで用語を複数選択すると各用語間は
デフォルトとして　ｏｒ　論理子で結合される。

例、　　指定医薬品　or　習慣性医薬品

必要に応じて or　論理子を　and　not　などに変える。

f）検索上の注意

① 商品分類 領域 を分類コードで検索する場合、必ず
87xxxx　のように入力する。

② 効能・効果 領域 の検索範囲は、効能・効果　及び　効能用法
であり、現バージョンでは 用法・用量 領域は検索しない。

3－2、検索結果一覧表示

a）一覧表示画面

f）CSV 出力

b）検索直後は "一般名" でソート（昇順）され表示される。

c）ソート機能（分析用）
並べ替えを行いたい項目のカラム（列）をクリックすることにより
該当カラム（列）でソートされる。（規制区分 ～ 会社名）
（行位置はどこでも良い。）

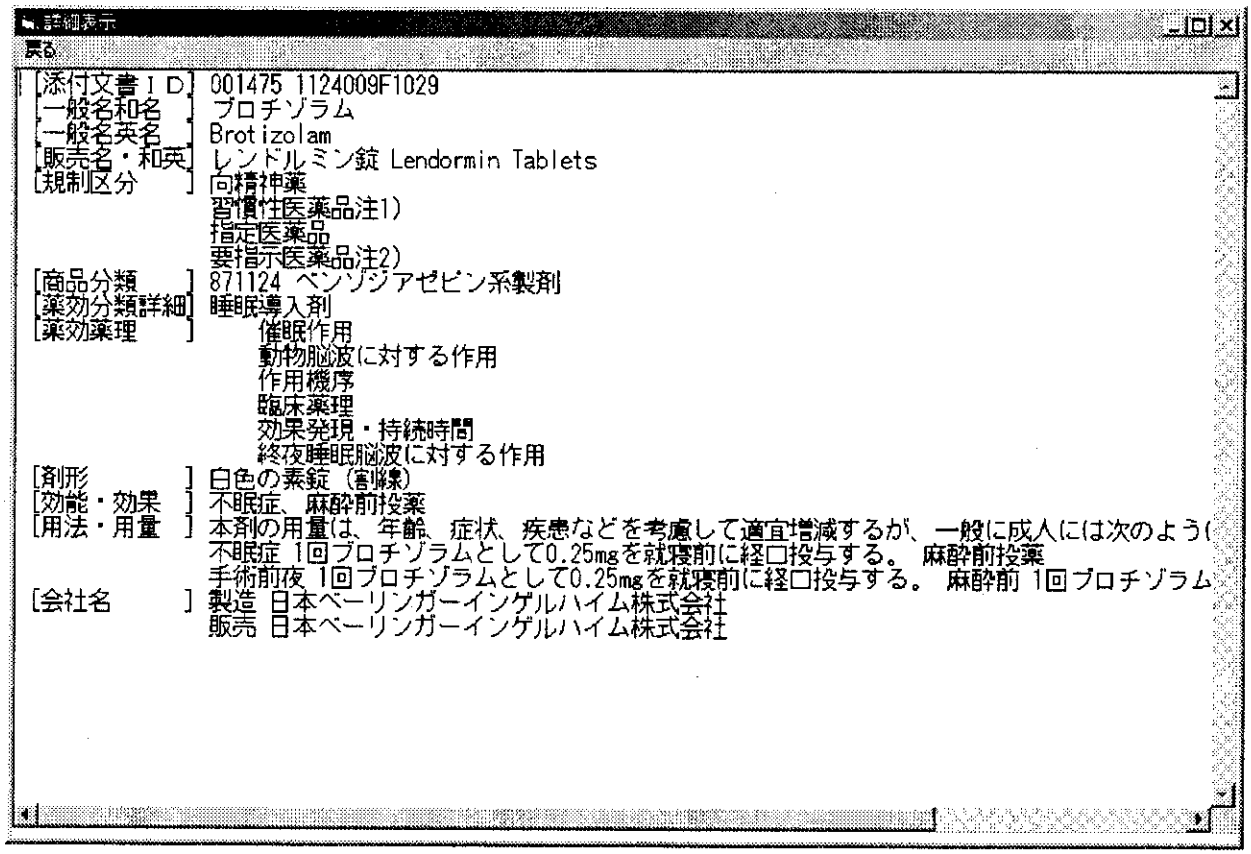
d）詳細表示
一覧表の中から更に詳細なデータを見たい場合、
最左端（添付文書ＩＤ　背景色が緑色）の行をクリックすると
該当データの詳細データ表示画面が表示される。

e）検索画面へ戻る
画面最上段メニューバーの　戻る　をクリックする。

f）ファイル出力（印刷などに利用）
閲覧中の一覧データを　HITRESULT.CSV ファイルへ出力する。
印刷その他の処理に利用する。

3－3、検索結果詳細表示画面

a）詳細表示画面



b）検索画面へ戻る

画面最上段メニューバーの 戻る をクリックする。

4、検索ロジック

4－1、項目内検索ロジック

a）論理積（and）　　質問語１　and　質問語２　and　～
（必ずスペースを入力する）

b）論理和（or）　　質問語１　or　質問語２　or　～
（必ずスペースを入力する）

c）論理否定（not）　　質問語１　not　質問語２
（必ずスペースを入力する）

d）注意事項
① 質問語数は最大５個まで
② 現在のバージョンでは、論理式の有効範囲はデータベースの１レコード単位であり、複数行に跨っているレコードの場合論理式検索の結果はFalseとなってしまう。

4－2、項目間検索ロジック

a）現在のバージョンでは、項目間は全て　論理積（and）　となる。

5、注意事項

a）一覧表示画面、詳細表示画面　から　前の画面へ戻る時は
必ず　メニューバー　の　戻る　をクリックすること。
（システムが画面上から消え、プロセスが残る状態になってしまう。）

b）項目内論理式について、現在のバージョンでは、論理式の有効範囲はデータベースの１レコード単位であり、項目が複数行に跨っているレコードの場合論理式検索の結果はFalseとなってしまう場合がある。

c）検索スピード
CPUのスピード、メモリーサイズなどに依存する。
例、CPU 600MHz 128Kb メモリー のパソコンで 規制区分＝無し を検索すると、検索時間2秒、一覧表展開11秒 で 5666件の結果を得る。
即ち、一覧表展開の時間が待ち時間となる。

e）データ件数
平成１４年２月８日までに入手したデータ　11,900件

以　上

［添付資料－２］

－ SGMLファイル構造（例、000136.sgm） －


```
0000
0001<添付文書>0002<作業情報>0003<作業>0004<作業日>2002年01月08日
0001<添付文書>0002<作業情報>0003<作業>
0001<添付文書>0002<作業情報>0003<作業>0004<作業者>財団法人日本医薬情報センター
0001<添付文書>0002<作業情報>0003<作業>
0001<添付文書>0002<作業情報>0003<作業>0004<作業内容>新規入力
0001<添付文書>0002<作業情報>0003<作業>
0001<添付文書>0002<作業情報>0003<作業>
0001<添付文書>0002<作業情報>
0001<添付文書>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<総称名>プロレナール
0001<添付文書>0002<書誌的事項>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<改訂履歴 改訂種別="改訂">0004<改訂年月>0005<DATEYM>1996年1月
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<改訂履歴 改訂種別="改訂">0004<改訂年月>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<改訂履歴 改訂種別="改訂">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<改訂履歴 改訂種別="改訂">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<改訂履歴 改訂種別="改訂">0004<改訂理由>改訂
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<改訂履歴 改訂種別="改訂">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<改訂履歴 改訂種別="改訂">0004<改訂年月>0005<DATEYM>2001年4月
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<改訂履歴 改訂種別="改訂">0004<改訂年月>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<改訂履歴 改訂種別="改訂">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<改訂履歴 改訂種別="改訂">0004<版数>第2版
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<改訂履歴 改訂種別="改訂">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<改訂履歴 改訂種別="改訂">0004<改訂理由>改訂
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<改訂履歴 改訂種別="改訂">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<商品分類>87219
0001<添付文書>0002<書誌的事項>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<薬効分類名>経口プロスタグランジンE
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<薬効分類名>0004<SUB>1
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<薬効分類名>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<薬効分類名>誘導体製剤
0001<添付文書>0002<書誌的事項>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<一般名>リマプロスト　アルファデクス錠
0001<添付文書>0002<書誌的事項>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>0004<和名>プロレナール&reg;錠
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>0004<洋名>PRORENAL&reg;
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>0004<規制区分>指定医薬品
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>0004<規制区分>要指示医薬品
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>0004<規制区分>0005<SUPER>注）
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>0004<規制区分>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>0004<規制区分>注）注意－医師等の処方せん・指示により使用すること
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>0004<承認番号>63AM-92
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>0004<薬価収載>0005<DATEYM>1988年4月
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>0004<薬価収載>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>0004<販売開始>0005<DATEYM>1988年4月
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>0004<販売開始>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>0004<再審査結果>0005<DATEYM>1995年6月
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>0004<再審査結果>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>0004<効能追加>0005<DATEYM>2001年4月
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>0004<効能追加>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<販売名>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<業者名>0004<関与形態>記載なし
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<業者名>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<業者名>0004<社名住所>0005<COMPANY>大日本製薬株式会社
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<業者名>0004<社名住所>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<業者名>0004<社名住所>0005<C.ADDRESS>大阪市中央区道修町2-6-8
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<業者名>0004<社名住所>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<業者名>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC1">0005<D.AUTHOR>橋本　晃，ほか
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC1">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC1">0005<D.NAME>現代医療
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC1">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC1">0005<D.VOL>20
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC1">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC1">0005<D.PAGE>817
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC1">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC1">0005<D.YEAR>1988
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC1">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC2">0005<D.AUTHOR>山本哲夫，ほか
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC2">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC2">0005<D.NAME>薬理と治療
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC2">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC2">0005<D.VOL>9
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC2">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC2">0005<D.PAGE>1463
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC2">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC2">0005<D.YEAR>1981
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC2">
```

0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC3">0005<D.AUTHOR>宮本茂敏，ほか
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC3">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC3">0005<D.NAME>現代医療
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC3">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC3">0005<D.VOL>18
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC3">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC3">0005<D.NO>増&roman02;
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC3">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC3">0005<D.PAGE>56
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC3">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC3">0005<D.YEAR>1986
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC3">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC4">0005<D.AUTHOR>宮本茂敏，ほか
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC4">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC4">0005<D.NAME>現代医療
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC4">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC4">0005<D.VOL>18
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC4">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC4">0005<D.NO>増&roman02;
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC4">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC4">0005<D.PAGE>80
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC4">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC4">0005<D.YEAR>1986
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC4">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC5">0005<D.AUTHOR>草場　昭，ほか
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC5">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC5">0005<D.NAME>医学のあゆみ
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC5">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC5">0005<D.VOL>138
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC5">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC5">0005<D.PAGE>217
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC5">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC5">0005<D.YEAR>1986
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC5">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC6">0005<D.AUTHOR>葉原　章，ほか
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC6">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC6">0005<D.NAME>臨床医業
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC6">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC6">0005<D.VOL>12
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC6">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC6">0005<D.PAGE>511
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC6">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC6">0005<D.YEAR>1996
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC6">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC7">0005<D.AUTHOR>北川敏一，ほか
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC7">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC7">0005<D.NAME>現代医療
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC7">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC7">0005<D.VOL>18
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC7">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC7">0005<D.NO>増&roman02;
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC7">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC7">0005<D.PAGE>1
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC7">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC7">0005<D.YEAR>1986
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC7">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC8">0005<D.AUTHOR>北川敏一，ほか
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC8">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC8">0005<D.NAME>現代医療
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC8">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC8">0005<D VOL>18
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC8">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC8">0005<D.NO>増&roman02;
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC8">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC8">0005<D.PAGE>12
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC8">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC8">0005<D.YEAR>1986
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC8">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC9">0005<D.AUTHOR>木谷泰治，ほか
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC9">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC9">0005<D.NAME>現代医療
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC9">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC9">0005<D.VOL>20
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC9">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC9">0005<D.PAGE>810
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC9">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC9">0005<D.YEAR>1988
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC9">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC10">0005<D.AUTHOR>前田義春，ほか
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC10">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC10">0005<D.NAME>血液と脈管
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC10">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC10">0005<D.VOL>13
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC10">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC10">0005<D.PAGE>142
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC10">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC10">0005<D.YEAR>1982
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC10">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>

0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC11">0005<D.AUTHOR>Tsuboi,T.,et al.
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC11">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC11">0005<D.NAME>Arch.Int.Pharmacodyn.Ther.
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC11">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC11">0005<D.VOL>247
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC11">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC11">0005<D.PAGE>89
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC11">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC11">0005<D.YEAR>1980
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC11">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC12">0005<D.AUTHOR>Tsuboi,T.,et al.
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC12">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC12">0005<D.NAME>Thromb.Res.
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC12">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC12">0005<D.VOL>20
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC12">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC12">0005<D.PAGE>573
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC12">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC12">0005<D.YEAR>1980
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC12">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC13">0005<D.NAME>大日本製薬資料
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC13">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC14">0005<D.AUTHOR>Fujitani,B.,et al.
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC14">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC14">0005<D.NAME>Jpn.J.Pharmacol.
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC14">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC14">0005<D.VOL>40
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC14">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC14">0005<D.PAGE>31
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC14">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC14">0005<D.YEAR>1986
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC14">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC15">0005<D.AUTHOR>伊藤邦臣，ほか
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC15">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC15">0005<D.NAME>基礎と臨床
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC15">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC15">0005<D.VOL>29
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC15">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC15">0005<D.PAGE>2577
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC15">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC15">0005<D.YEAR>1995
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC15">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC16">0005<D.AUTHOR>竹信敬史，ほか
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC16">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC16">0005<D.NAME>基礎と臨床
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC16">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC16">0005<D.VOL>30
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC16">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC16">0005<D.PAGE>221
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC16">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC16">0005<D.YEAR>1996
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC16">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC17">0005<D.AUTHOR>槇木博之，ほか
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC17">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC17">0005<D.NAME>基礎と臨床
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC17">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC17">0005<D.VOL>30
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC17">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC17">0005<D.PAGE>237
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC17">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC17">0005<D.YEAR>1996
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC17">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC18">0005<D.AUTHOR>鹿山　悟，ほか
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC18">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC18">0005<D.NAME>基礎と臨床
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC18">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC18">0005<D.VOL>30
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC18">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC18">0005<D.PAGE>229
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC18">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC18">0005<D.YEAR>1996
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC18">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC19">0005<D.AUTHOR>藤谷武一，ほか
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC19">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC19">0005<D.NAME>基礎と臨床
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC19">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC19">0005<D.VOL>30
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC19">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC19">0005<D.PAGE>246
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC19">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC19">0005<D.YEAR>1996
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>0004<DOC ID="DOC19">
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<主要文献>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<文献請求先>0004<COMPANY>大日本製薬株式会社
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<文献請求先>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<文献請求先>0004<C.DEP>医薬情報センター　薬剤部
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<文献請求先>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<文献請求先>0004<C.ZIP>541-0045

0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<文献請求先>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<文献請求先>0004<C.ADDRESS>大阪市中央区道修町 2-6-8
0001<添付文書>0002<書誌的事項>0003<文献請求先>
0001<添付文書>0002<書誌的事項>
0001<添付文書>
0001<添付文書>0002<本体>0003<禁忌 COMMENT="次の患者には投与しないこと">0004<LIST TYPE="NUM">0005<ITEM>0006<D>妊婦または妊娠している可能性のある婦人〔
0001<添付文書>0002<本体>0003<禁忌 COMMENT="次の患者には投与しないこと">0004<LIST TYPE="NUM">0005<ITEM>0006<D>0007<ITEMREF REFID="REF1">「妊婦・産婦・授乳婦等への投与」の項参照〕
0001<添付文書>0002<本体>0003<禁忌 COMMENT="次の患者には投与しないこと">0004<LIST TYPE="NUM">0005<ITEM>0006<D>
0001<添付文書>0002<本体>0003<禁忌 COMMENT="次の患者には投与しないこと">0004<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<禁忌 COMMENT="次の患者には投与しないこと">
0001<添付文書>0002<本体>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW TYPE="HEAD">0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.222)">販売名
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW TYPE="HEAD">
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW TYPE="HEAD">0007<CELL COLSPAN="3" OPTIONS="WIDTH(.778)">プロレナール錠
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW TYPE="HEAD">
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.222)">成分・含量
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>0007<CELL COLSPAN="3" OPTIONS="WIDTH(.778)">1 錠中リマプロスト アルファデクスをリマプロストとして 5&mcg;
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.222)">剤形
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>0007<CELL COLSPAN="3" OPTIONS="WIDTH(.778)">白色の素錠
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.222)">外形
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>0007<CELL COLSPAN="3" OPTIONS="WIDTH(.778)">（図略）　（図略）　（図略）
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>0007<CELL ROWSPAN="2" OPTIONS="WIDTH(.222)">大きさ
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.241)">直径（&mm;）
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.259)">厚さ（&mm;）
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.278)">重さ（&g;）
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.241)">6.6
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.259)">2.4
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.278)">0.10
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.222)">識別コード
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>0007<CELL COLSPAN="3" OPTIONS="WIDTH(.778)">P632
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>0006<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>0005<TABLE>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>0004<組成性状>
0001<添付文書>0002<本体>0003<組成と性状>
0001<添付文書>0002<本体>
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<効能効果>0005<効能本文>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍，疼痛および冷感などの虚血性諸症状の改善
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<効能効果>0005<効能本文>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<効能効果>0005<効能本文>0006<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<効能効果>0005<効能本文>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<UPD.S VER="2">後天性の腰部脊柱管狭窄症（SLR 試験正常で，両側性の間欠跛行を呈する患者）に伴う自覚症状（下肢疼痛，下肢しびれ）および歩行能力の改善
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<効能効果>0005<効能本文>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<UPD.S VER="2">
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<効能効果>0005<効能本文>0006<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<効能効果>0005<効能本文>
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<効能効果>
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<用法用量>0005<用法本文>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍，疼痛および冷感などの虚血性諸症状の改善には，
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<用法用量>0005<用法本文>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<LIST TYPE="NUM">0010<ITEM>0011<D>通常成人に，リマプロストとして 1 日 30&mcg;を 3 回に分けて経口投与する．
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<用法用量>0005<用法本文>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<LIST TYPE="NUM">0010<ITEM>
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<用法用量>0005<用法本文>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<用法用量>0005<用法本文>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<用法用量>0005<用法本文>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<用法用量>0005<用法本文>0006<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<用法用量>0005<用法本文>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<UPD.S VER="2">後天性の腰部脊柱管狭窄症（SLR 試験正常で，両側性の間欠跛行を呈する患者）に伴う自覚症状（下肢疼痛，下肢しびれ）および歩行能力の改善には，
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<用法用量>0005<用法本文>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<UPD.S VER="2">0010<UPD.E VER="2">0011<LIST TYPE="NUM">0012<ITEM>0013<D>0014<UPD.S VER="2">通常成人に，リマプロストとして 1 日 15&mcg;を 3 回に分けて経口投与する．
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<用法用量>0005<用法本文>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<UPD.S VER="2">0010<UPD.E VER="2">0011<LIST TYPE="NUM">0012<ITEM>0013<D>0014<UPD.S VER="2">
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<用法用量>0005<用法本文>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<UPD.S VER="2">0010<UPD.E VER="2">0011<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<用法用量>0005<用法本文>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<UPD.S VER="2">0010<UPD.E VER="2">
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<用法用量>0005<用法本文>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<UPD.S VER="2">
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<用法用量>0005<用法本文>0006<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<用法用量>0005<用法本文>
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>0004<用法用量>
0001<添付文書>0002<本体>0003<効能と用法>
0001<添付文書>0002<本体>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<慎重投与 COMMENT="次の患者には慎重に投与すること">0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>出血傾向のある患者〔出血を助長するおそれがある．〕
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<慎重投与 COMMENT="次の患者には慎重に投与すること">0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<慎重投与 COMMENT="次の患者には慎重に投与すること">0005<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<慎重投与 COMMENT="次の患者には慎重に投与すること">0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>抗血小板剤，血栓溶解剤，抗凝血剤を投与中の患者〔
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<慎重投与 COMMENT="次の患者には慎重に投与すること">0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<ITEMREF REFID="REF2">「相互作用」の項参照〕
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<慎重投与 COMMENT="次の患者には慎重に投与すること">0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<慎重投与 COMMENT="次の患者には慎重に投与すること">0005<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<慎重投与 COMMENT="次の患者には慎重に投与すること">
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<重要注意>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<UPD.S VER="2">腰部脊柱管狭窄症に対しては，症状の経過観察を行い，漫然と継続投与しないこと．
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<重要注意>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<UPD.S VER="2">
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<重要注意>0005<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<重要注意>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<UPD.S VER="2">腰部脊柱管狭窄症において，手術適応となるような重症例での有効性は確立していない．
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<重要注意>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<UPD.S VER="2">

0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<重要注意>0005<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<重要注意>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<相互作用 ID="REF2">0005<併用注意 COMMENT="併用に注意すること">0006<相互作用項>0007<薬剤名等>抗血小板剤
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<相互作用 ID="REF2">0005<併用注意 COMMENT="併用に注意すること">0006<相互作用項>0007<薬剤名等>0008
アスピリン
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<相互作用 ID="REF2">0005<併用注意 COMMENT="併用に注意すること">0006<相互作用項>0007<薬剤名等>0008
0009
チクロピジン
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<相互作用 ID="REF2">0005<併用注意 COMMENT="併用に注意すること">0006<相互作用項>0007<薬剤名等>0008
0009
0010
シロスタゾール
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<相互作用 ID="REF2">0005<併用注意 COMMENT="併用に注意すること">0006<相互作用項>0007<薬剤名等>0008
0009
0010
0011
血栓溶解剤
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<相互作用 ID="REF2">0005<併用注意 COMMENT="併用に注意すること">0006<相互作用項>0007<薬剤名等>0008
0009
0010
0011
0012
ウロキナーゼ
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<相互作用 ID="REF2">0005<併用注意 COMMENT="併用に注意すること">0006<相互作用項>0007<薬剤名等>0008
0009
0010
0011
0012
0013
抗凝血剤
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<相互作用 ID="REF2">0005<併用注意 COMMENT="併用に注意すること">0006<相互作用項>0007<薬剤名等>0008
0009
0010
0011
0012
0013
0014
ヘパリン
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<相互作用 ID="REF2">0005<併用注意 COMMENT="併用に注意すること">0006<相互作用項>0007<薬剤名等>0008
0009
0010
0011
0012
0013
0014
0015
ワルファリン
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<相互作用 ID="REF2">0005<併用注意 COMMENT="併用に注意すること">0006<相互作用項>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<相互作用 ID="REF2">0005<併用注意 COMMENT="併用に注意すること">0006<相互作用項>0007<臨床症状>これらの薬剤と併用することにより，出血傾向の増強をきたすおそれがある．観察を十分に行い，用量を調節するなど注意すること．
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<相互作用 ID="REF2">0005<併用注意 COMMENT="併用に注意すること">0006<相互作用項>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<相互作用 ID="REF2">0005<併用注意 COMMENT="併用に注意すること">0006<相互作用項>0007<危険因子>本剤は血小板凝集能を抑制するため，類似の作用をもつ薬剤を併用することにより作用を増強することが考えられる．
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<相互作用 ID="REF2">0005<併用注意 COMMENT="併用に注意すること">0006<相互作用項>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<相互作用 ID="REF2">0005<併用注意 COMMENT="併用に注意すること">
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<相互作用 ID="REF2">
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<発現状況>0006<SECTION>0007<TITLE>閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍，疼痛および冷感などの虚血性諸症状の改善
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<発現状況>0006<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<発現状況>0006<SECTION>0007<P>副作用集計の対象となった 4,582 例中 184 例（4.02%）に 249 件の副作用が認められた．主なものは下痢 49 件（1.07%），悪心・嘔気・嘔吐 22 件（0.48%），潮紅・ほてり 22 件（0.48%），発疹 17 件（0.37%），
腹部不快感・心窩部不快感 18 件（0.39%），腹痛・心窩部痛 16 件（0.33%），頭痛・頭重 14 件（0.31%），AST(GOT)・ALT(GPT)の上昇等の肝機能異常 12 件（0.26%），食欲不振 10 件（0.22%）等である．（再審査終了時）
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<発現状況>0006<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<発現状況>0006<SECTION>0007<TITLE>0008<UPD.S VER="2">後天性の腰部脊柱管狭窄症（SLR 試験正常で，両側性の間欠跛行を呈する患者）に伴う自覚症状（下肢疼痛，下肢しびれ）および歩行能力の改善
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<発現状況>0006<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<発現状況>0006<SECTION>0007<P>0008<UPD.S VER="2">副作用集計の対象となった 373 例中 34 例（9.12%）に 54 件の副作用が認められた．主なものは胃部不快感 8 件（2.14%），発疹 6 件（1.61%），頭痛・頭重 4 件（1.07%），
下痢 4 件（1.07%），貧血 3 例（0.80%）等である．（承認時）
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<発現状況>0006<SECTION>0007<P>0008<UPD.S VER="2">
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<発現状況>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<頻度区分>0007<発現頻度>0.1～2%未満
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<頻度区分>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<頻度区分>0007<発現頻度>0.1%未満
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<頻度区分>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>0007<発現部位等>過敏症（注 1）
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>0007<副作用症状>発疹，そう痒感等
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>0007<発現部位等>出血傾向（注 2）
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>0007<副作用症状>出血
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>0007<発現部位等>消化器
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>0007<副作用症状>下痢，悪心，腹部不快感，腹痛，食欲不振，胸やけ
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>0007<副作用症状>嘔吐，腹部膨満感
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>0007<発現部位等>肝臓
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>0007<副作用症状>AST（GOT）・ALT（GPT）の上昇等の肝機能異常
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>0007<発現部位等>循環器
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>0007<副作用症状>心悸亢進
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>0007<副作用症状>低血圧，四肢のチアノーゼ
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>0007<発現部位等>その他
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>0007<副作用症状>頭痛，潮紅，ほてり，めまい
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>0007<副作用症状>全身倦怠感，浮腫，乳腺腫脹，身ぶるい，下肢多毛，
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>0007<副作用症状>0008<UPD.S VER="2">貧血
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<副作用項>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<P>注 1：このような症状があらわれた場合には，投与を中止するなど適切な処置を行うこと．
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>0006<P>注 2：観察を十分に行い，異常が認められた場合には，投与を中止すること．
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>0005<他副作用>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<副作用>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<妊産婦投与 ID="REF1" LABEL="妊婦・産婦・授乳婦等への投与">0005<P>妊婦または妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと．〔動物実験（妊娠サル，妊娠ラット静脈内投与）で子宮収縮作用が報告されており
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<妊産婦投与 ID="REF1" LABEL="妊婦・産婦・授乳婦等への投与">0005<P>0006<DOCREF REFID="DOC1">，また，ヒトにおける妊娠中の投与に関する安全性は確立していない．〕
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<妊産婦投与 ID="REF1" LABEL="妊婦・産婦・授乳婦等への投与">
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<小児投与 LABEL="小児等への投与">0005<P>小児等に対する安全性は確立していない．〔使用経験がない．〕
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<小児投与 LABEL="小児等への投与">
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<過量投与>0005<P>健康成人に大量投与（30～40&mcg;/回）したとき，一過性の血圧下降を認めたとの報告がある
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<過量投与>0005<P>0006<DOCREF REFID="DOC2">．
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<過量投与>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<適用上注意>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<N>0008<EMP>薬剤交付時
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<適用上注意>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<N>

0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<適用上注意>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<適用上注意>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>PTP 包装の薬剤は PTP シートから取り出して服用するよう指導すること．〔PTP シートの誤飲により，硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し，更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている．〕
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<適用上注意>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<適用上注意>0005<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>0004<適用上注意>
0001<添付文書>0002<本体>0003<使用上注意>
0001<添付文書>0002<本体>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TITLE>血漿中濃度
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TITLE>0006<DOCREF REFID="DOC3">（参考）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<P>（ラット，[11β-
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<P>0006<SUPER>3
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<P>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<P>H］リマプロスト　アルファデクス 15&mcg;/&kg; 1 回経口投与）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TABLE>0006<ROW TYPE="HEAD">0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.323)">Tmax（&hr;）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TABLE>0006<ROW TYPE="HEAD">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TABLE>0006<ROW TYPE="HEAD">0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.339)">Cmax（&ng;/&ml;）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TABLE>0006<ROW TYPE="HEAD">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TABLE>0006<ROW TYPE="HEAD">0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.338)">t
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TABLE>0006<ROW TYPE="HEAD">0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.338)">0008<SUB>1
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TABLE>0006<ROW TYPE="HEAD">0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.338)">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TABLE>0006<ROW TYPE="HEAD">0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.338)">0008<SUB>/
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TABLE>0006<ROW TYPE="HEAD">0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.338)">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TABLE>0006<ROW TYPE="HEAD">0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.338)">0008<SUB>2
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TABLE>0006<ROW TYPE="HEAD">0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.338)">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TABLE>0006<ROW TYPE="HEAD">0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.338)">（&hr;）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TABLE>0006<ROW TYPE="HEAD">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TABLE>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TABLE>0006<ROW>0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.323)">1
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TABLE>0006<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TABLE>0006<ROW>0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.339)">0.72
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TABLE>0006<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TABLE>0006<ROW>0007<CELL OPTIONS="WIDTH(.338)">7.0
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TABLE>0006<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TABLE>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TITLE>吸収率
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TITLE>0006<DOCREF REFID="DOC3">（参考）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<P>90～95&percent;（ラット）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TITLE>血漿蛋白結合率
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<P>96.8&percent;（ヒト血漿，0.023&mmolm;濃度）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TITLE>主な代謝産物および代謝経路
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TITLE>0006<DOCREF REFID="DOC4">（参考）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0006<P>α;鎖のβ;酸化，ω;鎖末端の酸化，五員環の異性化，C-9 位のカルボニル基の還元等を受けて代謝される．（ラット）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TITLE>排泄経路および排泄率
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<TITLE>0006<DOCREF REFID="DOC3">（参考）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<N>排泄経路
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>胆汁中および尿中（ラット）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<N>排泄率
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>肝クリアランスを受けて投与量の 75～80&percent;が胆汁中に排泄されるが，腸肝循環して投与後 72 時間までに糞便中に約 70&percent;，尿中に約 30&percent;が排泄された．（ラット）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬物動態>
0001<添付文書>0002<本体>
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<TITLE>閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍，疼痛および冷感などの虚血性諸症状の改善
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>二重盲検比較試験
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<DOCREF REFID="DOC5">を含む総計
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<DOCREF REFID="DOC5">0007<UPD.S VER="2">136
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<DOCREF REFID="DOC5">0007<UPD.S VER="2">0008<UPD.E VER="2">例の臨床試験成績は次のとおりである．
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<DOCREF REFID="DOC5">0007<UPD.S VER="2">
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<DOCREF REFID="DOC5">0007<UPD.S VER="2">0008<TABLE>0009<ROW TYPE="HEAD">0010<CELL OPTIONS="WIDTH(.508)">対象疾患
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<DOCREF REFID="DOC5">0007<UPD.S VER="2">0008<TABLE>0009<ROW TYPE="HEAD">
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<DOCREF REFID="DOC5">0007<UPD.S VER="2">0008<TABLE>0009<ROW TYPE="HEAD">0010<CELL OPTIONS="WIDTH(.492)">0011<UPD.S VER="2">改善率
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<DOCREF REFID="DOC5">0007<UPD.S VER="2">0008<TABLE>0009<ROW TYPE="HEAD">
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<DOCREF REFID="DOC5">0007<UPD.S VER="2">0008<TABLE>
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<DOCREF REFID="DOC5">0007<UPD.S VER="2">0008<TABLE>0009<ROW>0010<CELL OPTIONS="WIDTH(.508)">閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍，疼痛および冷感などの虚血性諸症状
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<DOCREF REFID="DOC5">0007<UPD.S VER="2">0008<TABLE>0009<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<DOCREF REFID="DOC5">0007<UPD.S VER="2">0008<TABLE>0009<ROW>0010<CELL OPTIONS="WIDTH(.492)">0011<UPD.S VER="2">56&percent;（77/138）
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<DOCREF REFID="DOC5">0007<UPD.S VER="2">0008<TABLE>0009<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<DOCREF REFID="DOC5">0007<UPD.S VER="2">0008<TABLE>
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<DOCREF REFID="DOC5">0007<UPD.S VER="2">
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<DOCREF REFID="DOC5">0007<UPD.S VER="2">0008<P>0009<UPD.S VER="2">なお，二重盲検比較試験
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<DOCREF REFID="DOC5">0007<UPD.S VER="2">0008<P>0009<UPD.S VER="2">0010<DOCREF REFID="DOC5">において，閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍，疼痛および冷感などの虚血性諸症状に対する有用性が認められている．
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<DOCREF REFID="DOC5">0007<UPD.S VER="2">0008<P>0009<UPD.S VER="2">0010<DOCREF REFID="DOC5">
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<TITLE>0006<UPD.S VER="2">後天性の腰部脊柱管狭窄症（SLR 試験正常で，両側性の間欠跛行を呈する患者）に伴う自覚症状（下肢疼痛，下肢しびれ）および歩行能力の改善
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">二重盲検比較試験
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">0007<DOCREF REFID="DOC6">を含む総計 168 例の臨床試験成績は次の通りである．なお，これらの評価は 6 週間投与で実施されている．

0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">0007<DOCREF REFID="DOC6">
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">0007<DOCREF REFID="DOC6">0008<TABLE>0009<ROW TYPE="HEAD">0010<CELL OPTIONS="WIDTH(.722)">0011<UPD.S VER="2">対象疾患
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">0007<DOCREF REFID="DOC6">0008<TABLE>0009<ROW TYPE="HEAD">
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">0007<DOCREF REFID="DOC6">0008<TABLE>0009<ROW TYPE="HEAD">0010<CELL OPTIONS="WIDTH(.278)">0011<UPD.S VER="2">改善率
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">0007<DOCREF REFID="DOC6">0008<TABLE>0009<ROW TYPE="HEAD">
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">0007<DOCREF REFID="DOC6">0008<TABLE>
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">0007<DOCREF REFID="DOC6">0008<TABLE>0009<ROW>0010<CELL OPTIONS="WIDTH(.722)">0011<UPD.S VER="2">後天性の腰部脊柱管狭窄症（SLR 試験正常で，両側性の間欠跛行を呈する患者）に伴う自覚症状（下肢疼痛，下肢しびれ）および歩行障害

0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">0007<DOCREF REFID="DOC6">0008<TABLE>0009<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">0007<DOCREF REFID="DOC6">0008<TABLE>0009<ROW>0010<CELL OPTIONS="WIDTH(.278)">0011<UPD.S VER="2">56%(94/168)
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">0007<DOCREF REFID="DOC6">0008<TABLE>0009<ROW>
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">0007<DOCREF REFID="DOC6">0008<TABLE>
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">0007<DOCREF REFID="DOC6">
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">0007<DOCREF REFID="DOC6">0008<P>0009<UPD.S VER="2">また，二重盲検比較試験
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">0007<DOCREF REFID="DOC6">0008<P>0009<UPD.S VER="2">0010<DOCREF REFID="DOC6">において，後天性の腰部脊柱管狭窄症（SLR 試験正常で，両側性の間欠跛行を呈する患者）に伴う自覚症状（下肢疼痛，下肢しびれ）および歩行障害に対する有用性が認められている．

0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">0007<DOCREF REFID="DOC6">0008<P>0009<UPD.S VER="2">0010<DOCREF REFID="DOC6">
0001<添付文書>0002<本体>0003<臨床成績>
0001<添付文書>0002<本体>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<TITLE>末梢循環障害改善作用
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<P>大腿動脈にラウリン酸を投与して作成した末梢（後肢）循環障害モデルおよびアドレナリン，エルゴタミンを皮下投与して作成した末梢（尾）循環障害モデルにおいて，虚血性病変の進行を抑制する．（ラット）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<TITLE>血流増加・皮膚温上昇作用
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>大腿動脈血流量および後肢皮膚血流量を増加し，後肢皮膚温を上昇させるが，この血流増加作用は腰部交感神経節切除によって影響されない
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<DOCREF REFID="DOC8">．（イヌ）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>閉塞性血栓血管炎患者に経口投与すると，末梢側（足背，足底）の皮膚温が上昇する
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<DOCREF REFID="DOC9">．
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<TITLE>血小板に対する作用
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<TITLE>血小板粘着抑制作用
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>血栓性疾患患者に経口投与すると，血小板粘着能が低下する
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<DOCREF REFID="DOC10">．
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>血小板の粘着を抑制し，その 50%抑制濃度はリマプロストとして 0.186&ng;/&ml;である（モルモット，in vitro）．経口投与においても，血小板粘着を抑制する（モルモット，ex vivo）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<DOCREF REFID="DOC11">．
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<TITLE>血小板凝集抑制作用
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>血栓性疾患患者に経口投与すると，血小板凝集を抑制する．この作用の強さはプロスタグランジン I
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<SUB>2
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>に匹敵する
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<DOCREF REFID="DOC10">．
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>種々の凝集誘発物質による血小板凝集を抑制し，また，ADP 凝集を解離する（モルモット，in vitro）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<DOCREF REFID="DOC12">．経口投与においても，血小板凝集を抑制する（モルモット，ex vivo）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<DOCREF REFID="DOC12">0010<DOCREF REFID="DOC11">．
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<DOCREF REFID="DOC12">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>血小板のサイクリック AMP 含量を著明に増加し
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<DOCREF REFID="DOC12">，また，トロンボキサン A
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<DOCREF REFID="DOC12">0010<SUB>2
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<DOCREF REFID="DOC12">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<DOCREF REFID="DOC12">の生成を抑制する（モルモット，in vitro）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<DOCREF REFID="DOC12">0010<DOCREF REFID="DOC13">．
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">0007<ITEM>0008<D>0009<DOCREF REFID="DOC12">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>0006<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<SUBSECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<TITLE>抗血栓作用
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<P>電気刺激により腸間膜動脈に血栓を形成する実験において，用量依存的に血栓形成の閾値電圧を上昇させる．（モルモット）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<TITLE>0006<UPD.S VER="2">神経組織血流量増加作用
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<UPD.S VER="2">第 6 腰椎の硬膜上にバルーンを挿入して馬尾神経を圧迫したモデルにおいて，馬尾神経組織血流量を改善する
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<UPD.S VER="2">0009<DOCREF REFID="DOC15">．（イヌ）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<UPD.S VER="2">0009<DOCREF REFID="DOC15">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<UPD.S VER="2">第 4 および第 6 腰椎脊柱管内にシリコンラバーを挿入して馬尾神経を圧迫したモデルにおいて，馬尾神経組織血流量を改善する
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<UPD.S VER="2">0009<DOCREF REFID="DOC16">．（ラット）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<UPD.S VER="2">0009<DOCREF REFID="DOC16">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<UPD.S VER="2">右後肢の坐骨神経を 2 カ所結紮した坐骨神経結紮モデルにおいて，結紮中間部の坐骨神経組織血流量を改善する
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<UPD.S VER="2">0009<DOCREF REFID="DOC17">．（ラット）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<UPD.S VER="2">0009<DOCREF REFID="DOC17">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<TITLE>0006<UPD.S VER="2">神経機能改善作用

0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<UPD.S VER="2">第７腰椎の硬膜上にバルーンを挿入して馬尾神経を圧迫したモデルにおいて，神経伝導速度の低下を抑制する
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<UPD.S VER="2">0009<DOCREF REFID="DOC18">.（イヌ）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<UPD.S VER="2">0009<DOCREF REFID="DOC18">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<UPD.S VER="2">右後肢の坐骨神経を４カ所結紮した坐骨神経結紮モデルにおいて，結紮側大腿部筋肉の熱刺激誘発筋放電持続時間の延長を抑制する
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<UPD.S VER="2">0009<DOCREF REFID="DOC19">.（ラット）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">0006<ITEM>0007<D>0008<UPD.S VER="2">0009<DOCREF REFID="DOC19">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<TITLE>0006<UPD.S VER="2">痛覚過敏改善作用
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">右後肢の坐骨神経を２カ所結紮した坐骨神経結紮モデルにおいて，結紮側の痛覚過敏を改善する
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">0007<DOCREF REFID="DOC17">.（ラット）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">0007<DOCREF REFID="DOC17">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<TITLE>0006<UPD.S VER="2">歩行障害改善作用
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">第４および第６腰椎脊柱管内にシリコンラバーを挿入して馬尾神経を圧迫したモデルにおいて，歩行距離の低下を改善する
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">0007<DOCREF REFID="DOC16">.（ラット）
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>0004<SECTION>0005<P>0006<UPD.S VER="2">0007<DOCREF REFID="DOC16">
0001<添付文書>0002<本体>0003<薬効薬理>
0001<添付文書>0002<本体>
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<一般名>リマプロスト　アルファデクス
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<一般名英名>Limaprost Alfadex
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<化学名>(E)-7-{(1R,2R,3R)-3-hydroxy-2-[(3S,5S)-(E)-3-hydroxy-5-methyl-1-nonenyl]-5-oxocyclopentyl}-2-heptenoic acid α-cyclodextrin inclusion compound
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子式>C
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子式>0005<SUB>22
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子式>
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子式>H
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子式>0005<SUB>36
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子式>
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子式>O
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子式>0005<SUB>5
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子式>
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子式>・xC
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子式>0005<SUB>36
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子式>
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子式>H
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子式>0005<SUB>60
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子式>
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子式>O
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子式>0005<SUB>30
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子式>
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子量>380.52（ただし，リマプロスト{C
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子量>0005<SUB>22
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子量>
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子量>H
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子量>0005<SUB>36
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子量>
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子量>O
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子量>0005<SUB>5
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子量>
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<分子量>)として）
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<化学構造式>（図略）
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>0004<物理性状>白色の粉末である．水に溶けやすく，エタノールに極めて溶けにくく，酢酸エチルまたはエーテルにほとんど溶けない．吸湿性である．
0001<添付文書>0002<本体>0003<理化学知見>
0001<添付文書>0002<本体>
0001<添付文書>0002<本体>0003<貯法等>0004<貯法>0005<P>防湿・室温保存
0001<添付文書>0002<本体>0003<貯法等>0004<貯法>
0001<添付文書>0002<本体>0003<貯法等>
0001<添付文書>0002<本体>0003<貯法等>0004<使用期限>ケースに記載
0001<添付文書>0002<本体>0003<貯法等>
0001<添付文書>0002<本体>
0001<添付文書>0002<本体>0003<包装>0004<LIST TYPE="NUM">0005<ITEM>0006<N>0007<EMP>プロレナール錠
0001<添付文書>0002<本体>0003<包装>0004<LIST TYPE="NUM">0005<ITEM>0006<N>
0001<添付文書>0002<本体>0003<包装>0004<LIST TYPE="NUM">0005<ITEM>0006<N>（5&meg;）
0001<添付文書>0002<本体>0003<包装>0004<LIST TYPE="NUM">0005<ITEM>
0001<添付文書>0002<本体>0003<包装>0004<LIST TYPE="NUM">0005<ITEM>0006<D>210 錠（21 錠×10），1,050 錠（21 錠×50）
0001<添付文書>0002<本体>0003<包装>0004<LIST TYPE="NUM">0005<ITEM>
0001<添付文書>0002<本体>0003<包装>0004<LIST TYPE="NUM">
0001<添付文書>0002<本体>0003<包装>
0001<添付文書>0002<本体>
0001<添付文書>
0000